

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設独自の理念を職員全員が理解し、それに基づいた介護を実践している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の目立つ場所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。毎月1回実施している勉強会の中でも取り上げ、具体的なケアに繋げている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関の目立つ場所に掲示し、来所者の方々に確認して頂けるようにしている。施設での行事や家族会での説明も行ってはいるが、地域の方へはまだ完全に浸透しているとは言えない。		もっと地域の方にも施設の理念を理解して頂く機会を作りたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に入会しており、できる限り地域の行事や、小学校、保育園の行事への参加をしている。又、地域の方々の施設への行事に招待し、利用者との交流を深めて頂いたりもしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、運動会、バレーボール大会等に参加している。又、今年からは、地域の缶拾い等利用者と一緒に参加する予定にもしている。		もっと交流する機会を増やしていきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の際に、地域の役員の方々と高齢者問題や地域の現状等を話し合っている。福祉に関する相談を常時受け付けている。		福祉に関する相談を常時受け付けている事を、運営推進会議や回覧板等を通じて地域に広めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で説明し、職員が振り分けられた自己評価項目を記入し、外部評価後の会議で施設の現状や改善点を協議し、サービスの向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で施設の現状や課題点等を報告し、地域の方々、市の職員より様々な意見、アドバイスを頂いている。前回要望のあった議題は会議で話し合い、報告するように努めている。		会議での検討案や意見などを全職員に伝達し、サービスの向上につながるよう取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より市の担当者と連絡をとり、必要時には素早い対応ができるようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月1回実施している勉強会の議題に取り上げ、全職員が理解し必要時に説明ができるよう、指導している。		新人職員への指導に努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、勉強会等で取り上げ、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っており、職員には常に意識してサービスを提供するよう指導している。		もっと虐待防止に関する理解を深める取り組みを行っていききたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけ、丁寧に説明しており、項目毎に不明な点がないか確認するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情を言い出しやすい雰囲気作りを心がけ、申し出があった際には会議等で話し合い、よりよいサービスに繋げるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	文書による定期的な報告の他にも、必要に応じて電話連絡も行っている。金銭管理については、毎月通帳のコピーと領収書を送付して確認して頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言って頂けるような信頼関係作りを努めており、苦情受付箱も設置している。		家族会への参加があまり多くない状況なので、参加者を増やしより多くの意見を出して頂くようにしていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月幹部会・全体会議・各棟定例会を行い職員の意見を取り入れ反映させるようにしている。又、日頃よりコミュニケーションを取るよう心がけ、話しやすい雰囲気作りをしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕のある人員配置により、柔軟な対応ができるようにしている。職員の疲労・ストレスに気を配り、昼休憩以外にも10時と15時に短時間休憩できるようにしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に年に二回の異動を行っているが、普段からユニット間でも職員と利用者の交流を行い、なじみの関係を築くようにしている。また出来るだけ離職者が出ないように職員へのケアも行っている。		
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し手生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているようにしている。	募集・採用にあたっては、性別・年齢よりも、面接時の介護への理解や仕事への意欲、人間性を重視しており、配置の際も考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の会議、勉強会の議題に取り上げ、その都度人権尊重の大切さについて言及し再確認するようにしている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が参加できるようシフト調整している。		どうしても役職者の参加が多いため、介護職員の参加を増やしていきたい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者の交流会に参加し、近隣地区の同業者との意見交換等を行って、日々のサービスの向上に努めている。また事業者協議会にも22年度より入会を予定している。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々、各ユニットへ足を運んでコミュニケーションを図り、小さな変化にも気を配るようにしている。定期的な親睦会も実施している。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人の特性、長所を見出し、適切な配置を行っている。研修の参加や、資格取得の支援も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人と面談を行い、思いや不安、要望等を聞き、生活状態を把握し、職員へ申し送りをしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に話し合いの場を持ち、家族の要望を聴き、どのようなサービスが提供できるかを丁寧に説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時、本人の状態や本人・家族の意向を確認し、現時点において必要なサービスを見極め、情報提供や助言を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面談・見学以外にも、希望者には日中の体験利用等ができる体制を整えている。又、入居後は本人が馴染めるまでこまめに家族との連絡を取りながら情報交換を行い、必要に応じて電話や面会の機会を多く持つて頂くよう家族に協力を依頼している。		日中の体験利用だけでなく、体験宿泊の利用ができる体制を整えていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に家事や食事をしたりする中で、調理法や味付けなどの知識を教わったり、昔話を聞かせてもらったりして、色々な事を学びながら、日々喜怒哀楽を共にしている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際、家族に連絡を取り、参加して頂いて、皆で楽しく過ごす時間を共有している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係を把握し、良い関係が維持できるように支援している。面会の際は、本人の居室にてゆっくり談話して頂けるよう配慮している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を尊重し、馴染みの地域での行事への参加や、家族の協力の下、お盆やお正月に外出・外泊等をして頂いている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	体操やレクリエーション、行事等への参加を呼びかけ、利用者同士が関わり合い、楽しい時間を共有できるよう配慮している。又、利用者の関係を考慮し、席の配置等工夫している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族に対しては、必要により電話相談や情報提供等を実施し、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画立案時に、本人・家族へ意向確認を実施している。また、立案時以外でも常に利用者の声に耳を傾け、その時その時の希望の把握に努めている。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに加え、日々の生活の中で本人や家族との信頼関係を築きながら、生活歴等の把握に努めている。	
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りや記録、月1回の定例会にて利用者の心身状態や生活リズムを把握し、一人ひとりに合わせたケアを提供している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、本人・家族の意向、定期受診による主治医の意見等を基にサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。現在、担当者会議はスタッフ全員が参加できる夜間帯に実施しており、本人・家族は参加できていない。	担当者会議に本人・家族の参加ができる体制を整えていきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一度、介護計画の定期的な見直しを実施している。又、本人に状態変化時や退院時などは再度プランの見直しを行い、現状に即したプランを作成している。	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、日々の様子や介護計画の実行状況・状態を具体的に記入し、スタッフ全員で情報を共有して、モニタリングや介護計画作成に活かしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や病院でのリハビリへの送迎など、本人・家族の要望に応じ対応している。行事等の開催についても、家族が参加可能なよう、日・祝日に実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事へ参加したり、施設の行事にボランティアや地域住民の方を招いたりして交流を深めている。又、消防署の協力を得ながら、年2回の消防避難訓練を実施している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の希望や必要に応じて、理美容や福祉用具事業者と連携を図り、支援している。		医療行為が必要となった場合に、訪問看護等の利用支援を行っていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	二ヶ月に一度の運営推進会議に参加頂き、情報の公開、意見交換等実施している。頂いた情報や意見は、ケアに活かすよう努めている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を確認しながら、受診や往診の支援を行っている。受診・往診時に施設での様子を主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、認知症専門の医師に診断や治療を受けられている利用者はいないが、本人・家族からの希望、必要性等あれば支援していきたい。		認知症専門医についての情報収集し、必要時に対応できるよう努めたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、日常の健康管理等を行っている。看護職員の勤務時以外でも、24時間連絡の取れる体制を整えており、緊急時に指示を仰ぎ、対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後は、病院関係者と連携を図りながら、本人の状態・経過の確認を行っている。又、面会や可能な範囲内で洗濯物の管理等も行い、本人が安心して治療に専念できるよう支援している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者のその時の状態に応じて、関係医療機関と連携を図り、全スタッフで情報や今後の方針を共有しながら、本人・家族の意向に沿った支援ができるよう努めている。又、全家族に重度化及び看取りに関する指針の説明を行い、同意を得ている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設において対応可能な範囲を本人・家族・病院関係者に明らかにした上で、その時の本人の状態や、本人・家族の意向を考慮し、関係医療機関と連携して重度の方や終末期の利用者の生活を支援している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え等の場合は、本人の状態、本人・家族の意向を踏まえ、関係者間の連携を密にし、十分な情報交換を行って、住み替え先でも安心して生活できるよう支援している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全体会議や定例会等で、個人情報や言葉のかけ方、接し方の対応について話し合い、見直すようにしている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	献立作成の際は、本人の好きな物や食べたい物等を尋ねる等してなるべく要望に応えるようにしている。衣服選びに関しても、一緒に組み合わせ等を話しながら、本人に選択して頂いている。又、難聴の方に対しては、筆談で対応する等の支援を行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者のペースに合わせると共に、その都度本人の希望を尋ね、意向に沿うよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容店の方に来所頂き、散髪・顔剃り等をして頂いている。男性の利用者には毎日髭剃りの声かけをし、介助が必要な方は職員が支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋の皮むき、もやしの根切り、ごぼう削ぎやおやつ作り等椅子に座ってできることや、料理の盛り付け、おしぼり作り、食器やトレ拭き等、利用者の能力や希望に応じて手伝って頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好をお把握しており、おやつの時も好きな飲み物を選んで頂き、提供している。麺類を好まれる方には、主食を麺にしたり、魚等嫌いな方に対しては、他の食材で対応する等している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄意思がある利用者は見守りを行い、排泄意思のない方には、声かけ・誘導を行い、安心した排泄の支援を行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される入居者には、毎日入浴して頂いている。そうでない方は、三日に一回のペースで入浴支援を行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の年齢・体調等を考慮し、希望により日中仮眠を取って頂いている。又、就寝には足浴を行ったりして安眠しやすい状態となるように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干して頂いたり、たたんで頂いたり、おしぼり作りやトレ拭き、料理の盛り付け等、一人ひとりの能力に応じた役割を担って頂き、張りのある生活の支援に努めている。又、レクリエーション時には、ゲームや飾り作りをしたり、天気の良い日は散歩に出かける等して気分転換に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的な金銭管理は職員が行うが、日常生活の中で買いたい物があれば職員付き添いでいつでも自由に買物が出来るよう取り組んでいる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に利用者が買物にいける時間や機会を提供している。又、病院への定期受診の帰り等に自宅に寄ったり、買物したりされる方もおられ、支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を聞き、季節ごとの外出や映画鑑賞、外食、地域の行事(夏祭り・しめ縄作り等)保育園や小学校の運動会、クリスマス会、発表会等、様々な場所に出かけられるよう支援している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて事務所の電話をかけた、かかってきた電話の取次ぎを行っている。また年賀状を毎年出して頂いている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来て頂けるように、特に面会時間は決めていない。面会時には、居室でくつろいで頂けるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や社内勉強会等により、職員全員の意識付けをして、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や門扉の鍵はかけずに開放されている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員による徹底した見守りを行い、所在確認をしている。居室で過ごされる方については、本人の状態に応じて訪室を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの状態に応じて、爪切り・はさみなどは職員により管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態を把握し、事故防止マニュアルに沿って支援にあたり、事故の防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回、消防署の協力を得、定期的に消防訓練や応急処置についての勉強会を行って知識や技術を習得している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年毎の消防避難訓練に地域の方へも参加をお願いする等の取り組みを行っている。		対応マニュアルをより詳細なものに刷新したい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態変化時には、家族への連絡を行い、状態や経過、現時点で起こりうるリスクについて報告・説明している。又、リスク対応について全職員で検討し、事故防止のために最善を尽くしている。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで一人ひとりの状態観察を行い、職員間での情報を共有している。状態変化に気付いた際には、速やかに看護職員と連絡を取る等を行い、必要な対応を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、職員が付き添い処方薬についての確認を実施している。又、個人のファイルに処方箋をファイリングし、職員全員が情報を共有できるようにしており、日々の状態観察と併せて支援を行っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	消化の良いメニューを工夫し、本人の状態に合わせた形態で提供している。又、毎日牛乳を提供したり、体操やレクレーションで身体を動かす機会を作り、便秘予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、週に1度の義歯洗浄剤使用、歯に異常がある方には、往診により受診の支援をしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人1人の食事量、水分量を記録している。こまめに声掛けを行い、好みの飲み物を提供している。食事が入らない方には本人の嗜好を考慮し別メニューにて対応している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出時のマスク着用、戻った際の手洗いを徹底している。年2回の検便の実施。利用者、職員全員インフルエンザの予防接種を受けている。調理の際は手洗い、調理器具の消毒を確実にしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、はさみ、まな板等の調理器具は使用前にアルコール消毒を実施している。生食用の食材を扱う際には手袋を着用している。週に3回の買い物により新鮮な食材を購入している。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や畑があり、利用者と一緒に手入れをし、家庭的な雰囲気を作っている。玄関には職員1人1人の手作りの自己紹介カードを展示し、親しみやすいよう工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節感を取り入れた飾り付けや行事・外出時の写真を貼り、両者同士で談話しながら見て回られている。毎日掃除を徹底して行っており、居心地の良い空間作りを心掛けている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや畳の部屋があり、利用者がゆっくり談話できるスペースがある。マッサージチェアを設置しておりいつでも利用できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物、なじみの物を家族の方に持ってきて頂き使われている。絵や花などを飾られたり、それぞれ思い思いの居室になっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中こまめに換気を行っている。エアコン使用時は温度・湿度に注意し、必要に応じて加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や車椅子を使用されている方が半数以上おられるので、利用者の行動されるスペースを極力広く取っている。転倒防止に気を配り、環境整備に取り組んでいる。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の居室の入り口には、担当スタッフ手作りの表札をかけている。トイレ・浴室入り口には大きな表示をしており、間違わずに使用できるように工夫している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに花を植えて外壁の周りに置いて鑑賞している。、花壇の花を摘んだり畑の野菜を収穫したりして季節を感じて頂けるように工夫している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

田舎の静かな環境の中で、ゆっくりと穏やかに過ごして頂いている。食材は社長自家製の米・野菜を多く取り入れ、調理の下ごしらえ、味見など職員と一緒に楽しくして頂いている。利用者間の会話も多く、家族同様に親しみを持たれ、お互い支え合って生活されており、職員と毎日笑いの絶えない日々を過ごされている。